

- ・耕起・碎土・整地・播種までの一連の作業は1日で行いましょう
- ・まだ播種が終わっていない農家は8月末までに播種を行いましょう

## 1. 雑草防除

- 碎土を丁寧に行い、苗立ちの確保と初期生育を促進し雑草の発生を抑えましょう。
- 生育期にイネ科雑草が多発した場合は、除草剤を適切に使用しましょう。

### 【除草剤の散布の目安】

薬剤名	適用雑草	使用時期 (雑草生育期)	10aあたり使用量		使用回数
			薬量	希釈水量	
ナブ乳剤	1年生イネ科雑草 (スズメカサヅを除く)	イネ科雑草 3~5葉期 (但し、収穫30日前まで)	150~200ml	100~150L	1回
		イネ科雑草 6~8葉期 (但し、収穫30日前まで)	200ml		

## 2. 害虫防除の徹底

ヨトウムシ (ハスモンヨトウ・シロスジアオヨトウ) は9月中旬以降に突発的に発生することが多く、**早期発見・適期防除が重要です。**

- 播種時期の早い圃場や生育の旺盛な圃場を中心に見回り、**葉の食害が見え始めたら早急に防除を行いましょう。**
- 薬剤散布をする場合は幼虫が小さいうちに行いましょう。老齢になると防除効果が劣るので、注意しましょう。
- 団地化された地域では、誘殺用フェロモントラップの圃場への設置が被害の発生防止に有効です。



ハスモンヨトウ(幼虫)



シロスジアオヨトウ(幼虫)

### 【そばに登録のある殺虫剤】

害虫名	薬剤名	使用時期	使用回数	希釈倍数・10aあたり使用量
ハスモンヨトウ	ロムダンフロアブル	21日前まで	2回以内	2,000倍・100~300 L/10a
	ロムダン粉剤DL	21日前まで	2回以内	4kg/10a
	クオークフロアブル	発生初期(収穫前日まで)	—	400倍・150~300 L/10a
	ゼンターリ顆粒水和剤	発生初期(収穫前日まで)	—	2,000倍・100~300 L/10a
	フェニックス顆粒水和剤	収穫7日前まで	2回以内	2,000~6,000倍・100~300 L/10a

※クオークフロアブル、ゼンターリ顆粒水和剤は天敵微生物を利用した生物農薬です。

### 【フェロモントラップ:ハスモンヨトウ雄成虫誘引剤】

薬剤名	目的	使用量	設置時期
フェロディンSL	ハスモンヨトウのオス成虫を 広域的に大量に誘殺	1個(台)/30a (1.5~2ヵ月有効)	播種後2週間後頃に 設置



フェロモンに誘引された  
ハスモンヨトウのオス成虫

### 誘殺用フェロモントラップの設置方法

- ・トラップの種類: ファネルトラップ
- ・設置時期: 成虫の発生初期(播種2週間後頃)
- ・設置場所
  - ▶ 団地化された作付け地域で広範囲に使用する
  - ▶ **圃場周辺部の風通しのよい場所**
  - ▶ 播種時期が早く生育が旺盛なほ場
- ・設置高: 地上1~1.5m(そばの草丈より高く)  
※支柱などを立て、固定してください。
- ・設置数: 30a当たり1台(2~4個/ha)
- ・その他: トラップに捕殺された成虫は適宜処分してください



ファネルトラップの設置



ハスモンヨトウ  
(オス成虫)

次のそば情報(そばの収穫時期と収穫作業)は9月下旬に発行予定です。